

# 2007年3月期 決算説明会



**トヨタ自動車株式会社**  
**2007年5月9日**

# 将来予測・インサイダー取引について

本資料には、当社(連結子会社を含む)の見通し、目標、計画、戦略などの将来に関する記述が含まれております。これらの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく判断および仮定に基づいており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、将来における当社の実際の業績または展開と大きく異なる可能性があります。なお、上記の不確定性および変動可能性を有する要素は多数あり、以下のようなものが含まれます。

- ◆日本、北アメリカ、ヨーロッパおよびトヨタが営業活動を行っているその他の国の自動車市場に影響を与える経済情勢、市場の需要ならびにそれらにおける競争的環境
- ◆為替相場の変動、特に日本円、米ドル、ユーロ、豪ドル及びイギリス・ポンドの相場変動
- ◆経営陣が設定したレベル、またはタイミングどおりに生産効率および向上と設備投資を実施するトヨタの能力
- ◆トヨタが営業活動を行っている市場内における法律、規制及び政府政策の変更で、特に貿易、環境保全、自動車排出ガス、燃費効率、安全性の面などにおいてトヨタの自動車事業に影響を与えるもの、または将来の訴訟やその他の法的手続きを含めたトヨタのその他の営業活動に影響を与える法律、規制及び政府政策の変更など
- ◆トヨタが営業活動を行っている市場内における政治的な不安定さ
- ◆タイムリーに新商品を開発し、それらが市場で受け入れられるようにするトヨタの能力
- ◆トヨタが材料、部品、資材などを調達し、自社製品を製造、流通、販売する主な市場における、燃料供給の不足、交通機能のマヒ、ストライキ、作業の中断、または労働力確保が中断されたり、困難である状況

以上の不確実性および変動要素全般に関する追加情報については、当社の有価証券報告書または米国証券取引委員会に提出された年次報告書(フォーム20-F)をご参照ください。

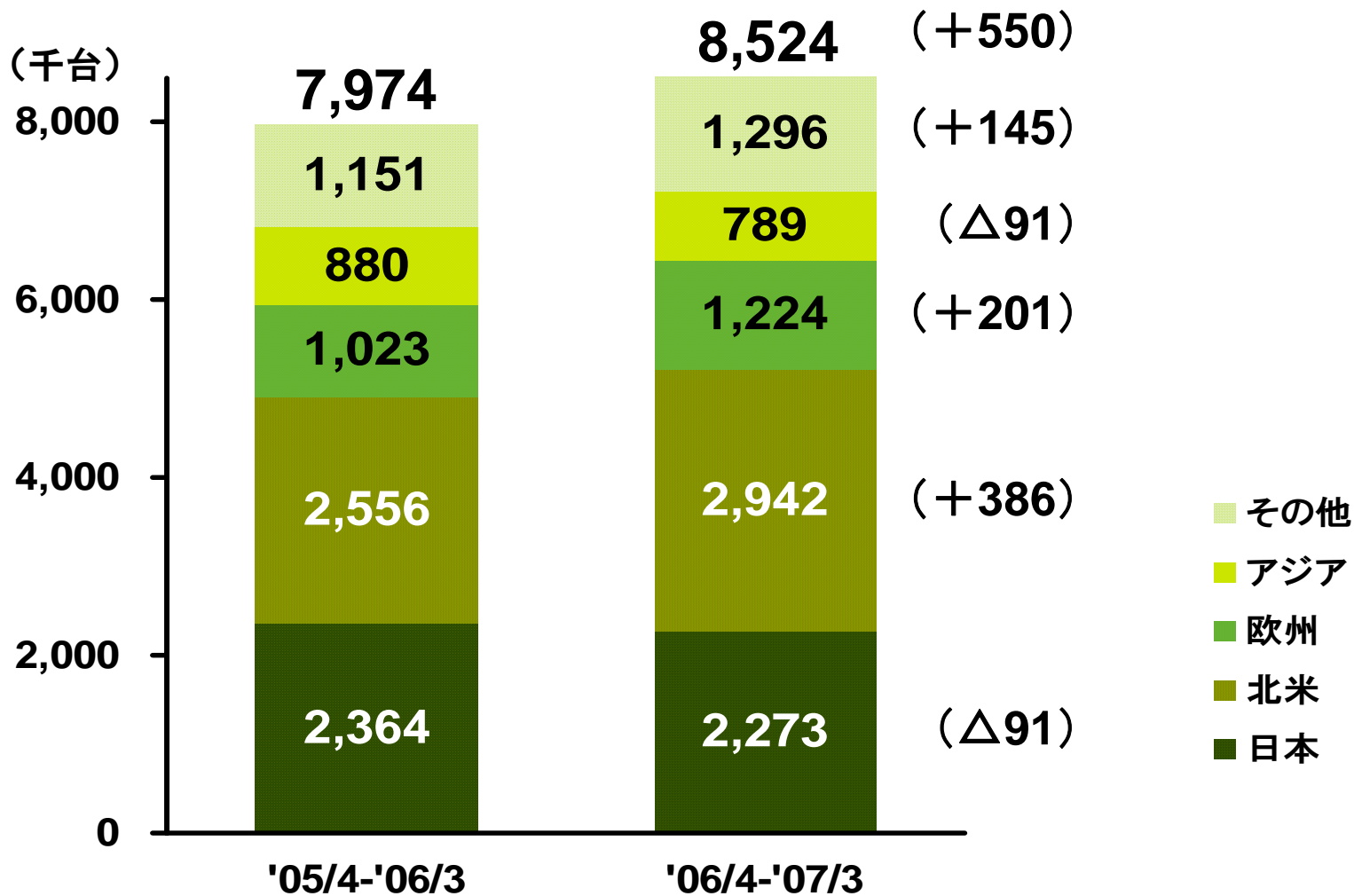
インサイダー取引に関するご注意:

企業から直接、未公開の重要事実の伝達を受けた投資家(第一次情報受領者)は、当該情報が「公表」される前に株式売買等を行うことが禁じられています(証券取引法166条)。同法施行令により、二以上の報道機関に対して企業が当該情報を公開してから12時間が経過した時点、または、証券取引所に通知しかつ内閣府令で定める電磁的方法(TDnetの適時開示情報閲覧サービスおよびED-NET公開WEBサイト)により掲載された時点を以って「公表」されたものとみなされます。

**取締役社長**

**渡辺 捷昭**

# 連結販売台数



( )内は'05/4-'06/3実績からの増減

# 決算サマリー

		前期比
□ 連結売上高:	23兆 9,480億円	(13.8%増)
□ 連結営業利益:	2兆 2,386億円	(19.2%増)
□ 連結当期純利益:	1兆 6,440億円	(19.8%増)

## 業績評価

- グローバルな販売台数増により、大幅増収・増益を達成
- 売上高、営業利益、純利益ともに過去最高を更新

## ● 資材調達

- 需給の逼迫
- 価格上昇

## ● 環境・安全

- 規制強化
- 顧客ニーズの高まり

## ● エネルギー

- 化石燃料の枯渇
- 代替燃料の開発

## ● 品質

- 車両保有期間の長期化
- 技術の高度化

## ● 海外生産

- 国内海外生産比率の逆転

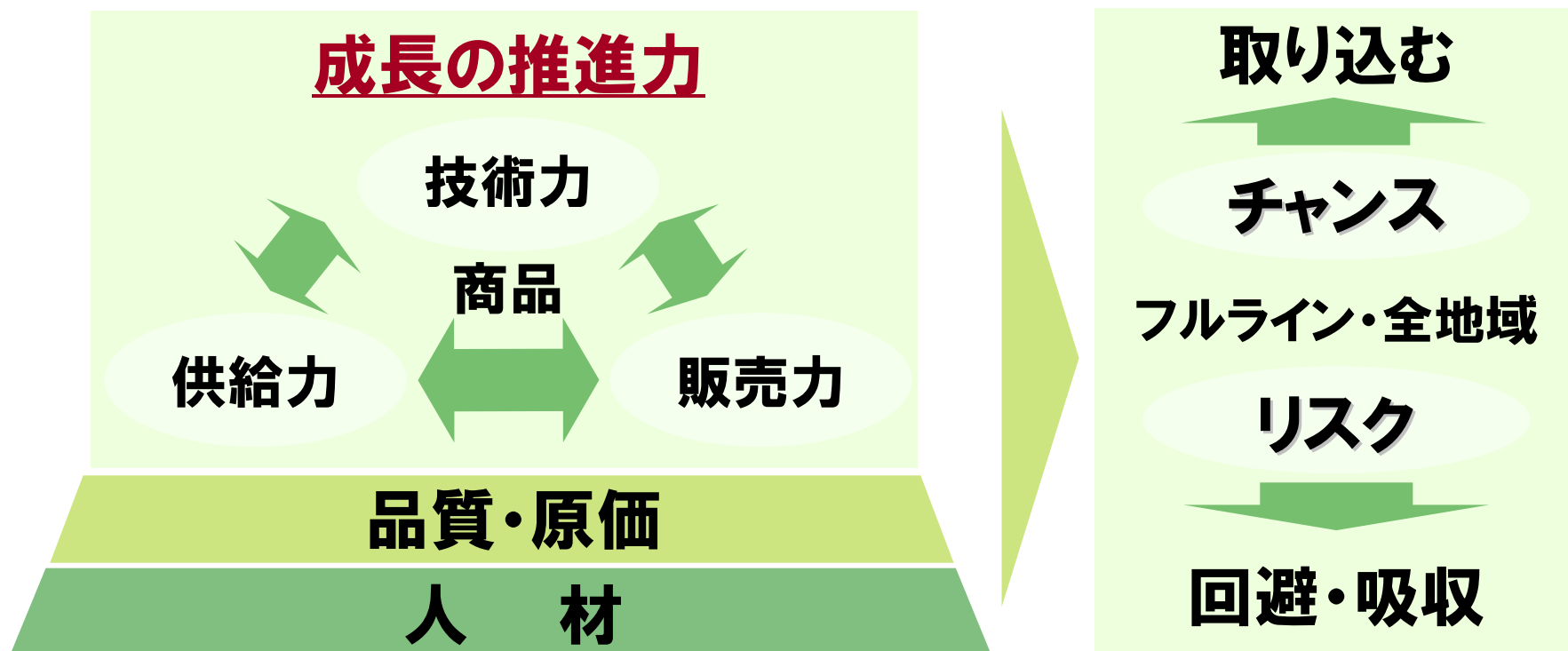
## ● エマージング市場

- 生産・販売体制の整備

チャンスに転換

# 目指す成長

## □ 長期安定的な成長



更なる成長に向けて

質の向上 ▶ 磐石な基盤を築く

# 07/3期・08/3期 主な取り組み

- 北米での商品力強化・現地生産推進
- 中国市場での急速な基盤整備
- グローバルコアモデルの立上げ
- VI活動の推進・成果の実現
- 技術力による将来の成長領域の開拓



# 北米での商品力強化・現地生産推進

## 07/3期

- テキサス工場立上げ
- 新型タンドラにより、フルラインナップ完成

## 08/3期

- SIA(富士重工業・米国工場)での生産委託立上げ
- カナダ第2工場・ミシシッピ工場の生産準備

### <質の向上のポイント>

- ・ラインナップ充実
- ・需要のあるところで生産×海外オペレーションの自律化

フルラインナップ

セグメント		車種	1970's	1980's	1990's	2000's
乗用車	セダン	大型 Avalon			★	
		中型 Camry		★	★	★
		小型 Corolla		★	★	
商用車	ピックアップトラック	大型 Tundra			★	★
		小型 Tacoma		★		★
	SUV	高級 RX				★
		中型 Highlander				★
		小型 RAV4				★
ミニバン		Sienna			★	★

★ 現地生産開始      ★ 能増/新工場追加      ☆ 計画



新型ハイランダー



RAV4  
**TOYOTA**

# 中国市場での急速な基盤整備

## 07/3期:

- 広州カムリ:  
生産・販売のスムーズな立上げ

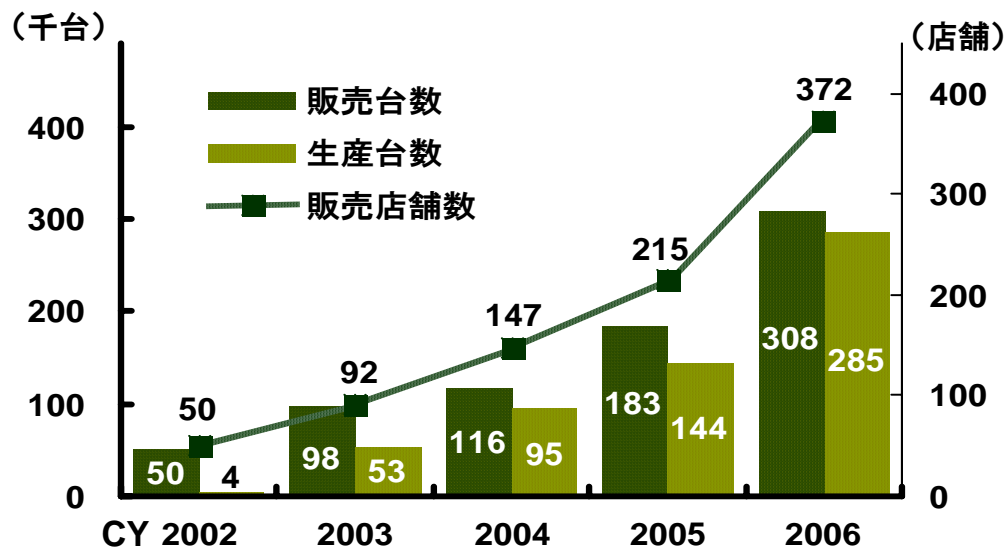
## 08/3期:

- 天津新型カローラ立上げ
- 3チャンネル店舗網の拡充

### <質の向上のポイント>

- ・グローバルモデルにローカル要件を確実に反映し、スムーズに立上げ
- ・都市部を中心に、急速に販売網を拡充・育成

### ■台数・店舗数推移(中国)



カムリ



カローラ

# グローバルコアモデルの立上げ

07/3期

08/3期

カムリ

台湾、豪、タイ、中国

ロシア

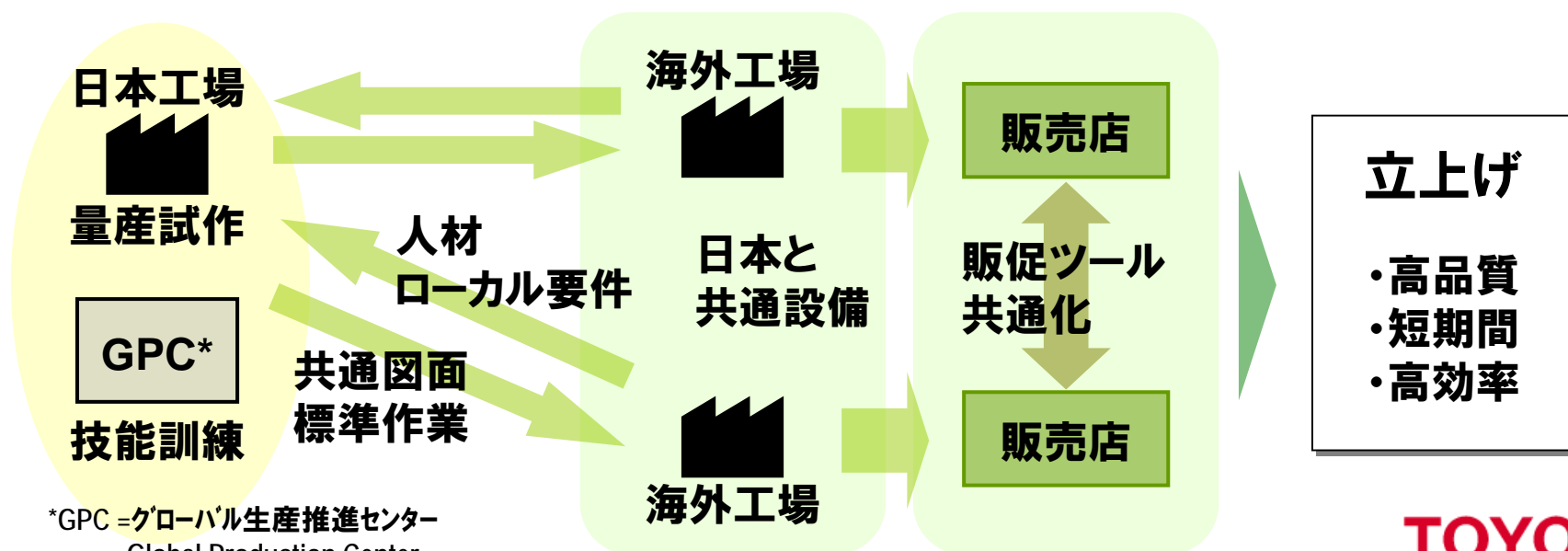
カローラ  
オーリス

日本、英国、トルコ

中国、南ア、台湾、タイ、  
ブラジル他

<質の向上のポイント>

- ・グローバルに設計・設備・販売促進ツールを共通化
- ・量産に向けたトライアル生産・技能訓練の集中化



\*GPC = グローバル生産推進センター  
Global Production Center

# VI活動の推進・成果の実現

## 07/3期:

- 2010年モデルまで立案
- 資材軸の活動開始

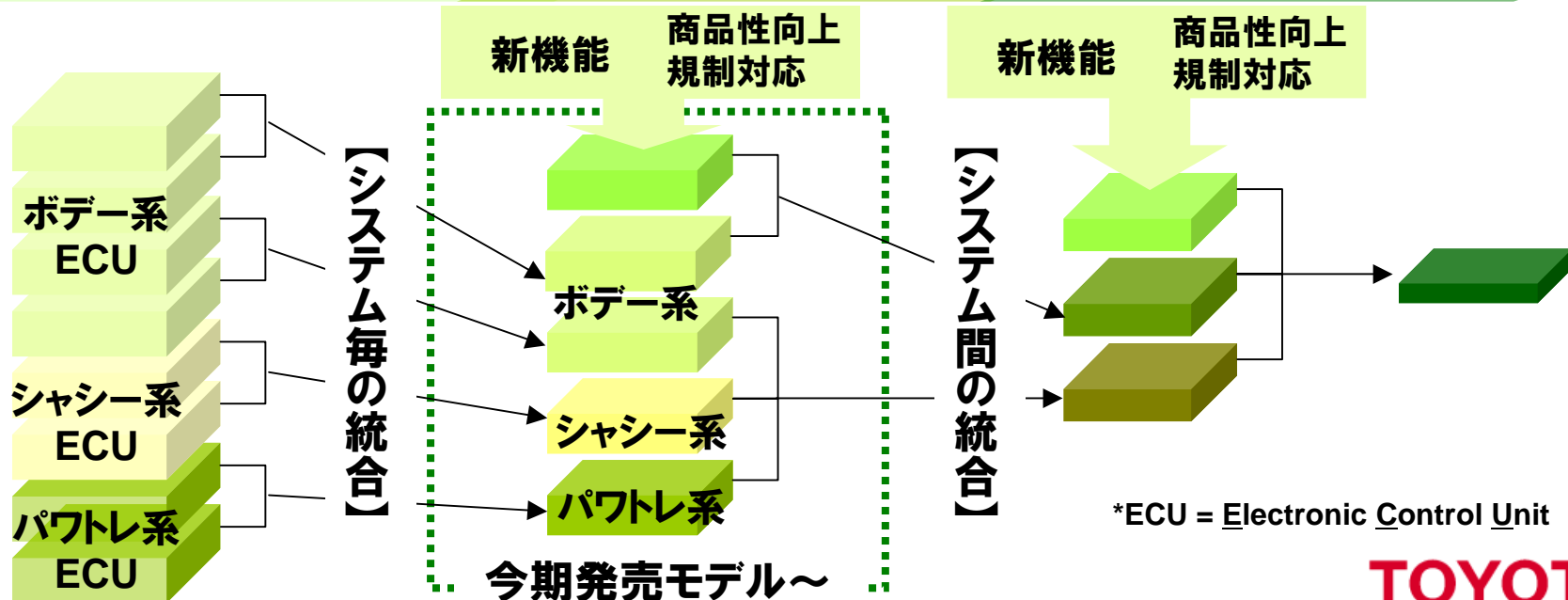
## 08/3期:

- 効果の実現開始
- 海外生産車・コンパクト車への取組み

### <質の向上のポイント>

## 成果の確実な実現へ向け、重点課題への取組みを強化

【ECU\*の事例】機能を向上させながら、ECU点数の削減／小型化を推進

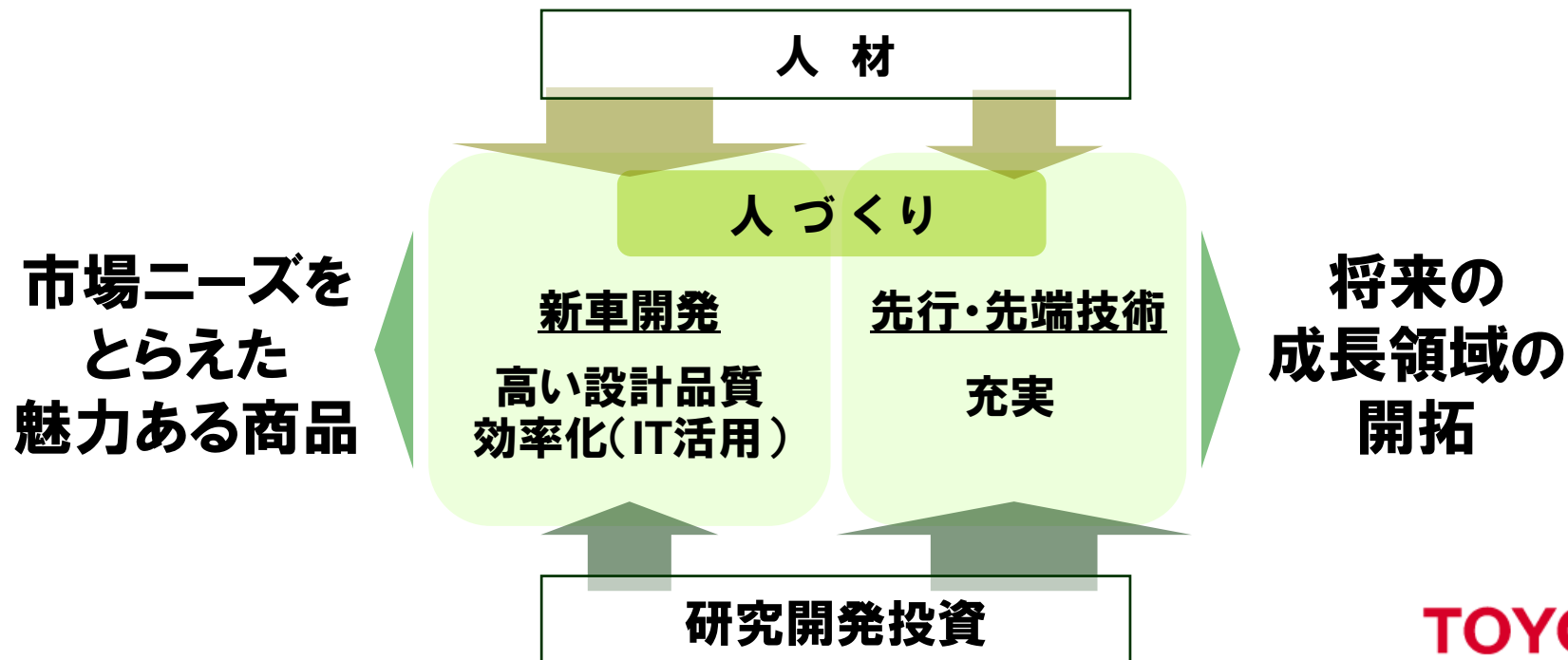


# 技術力による将来の成長領域の開拓

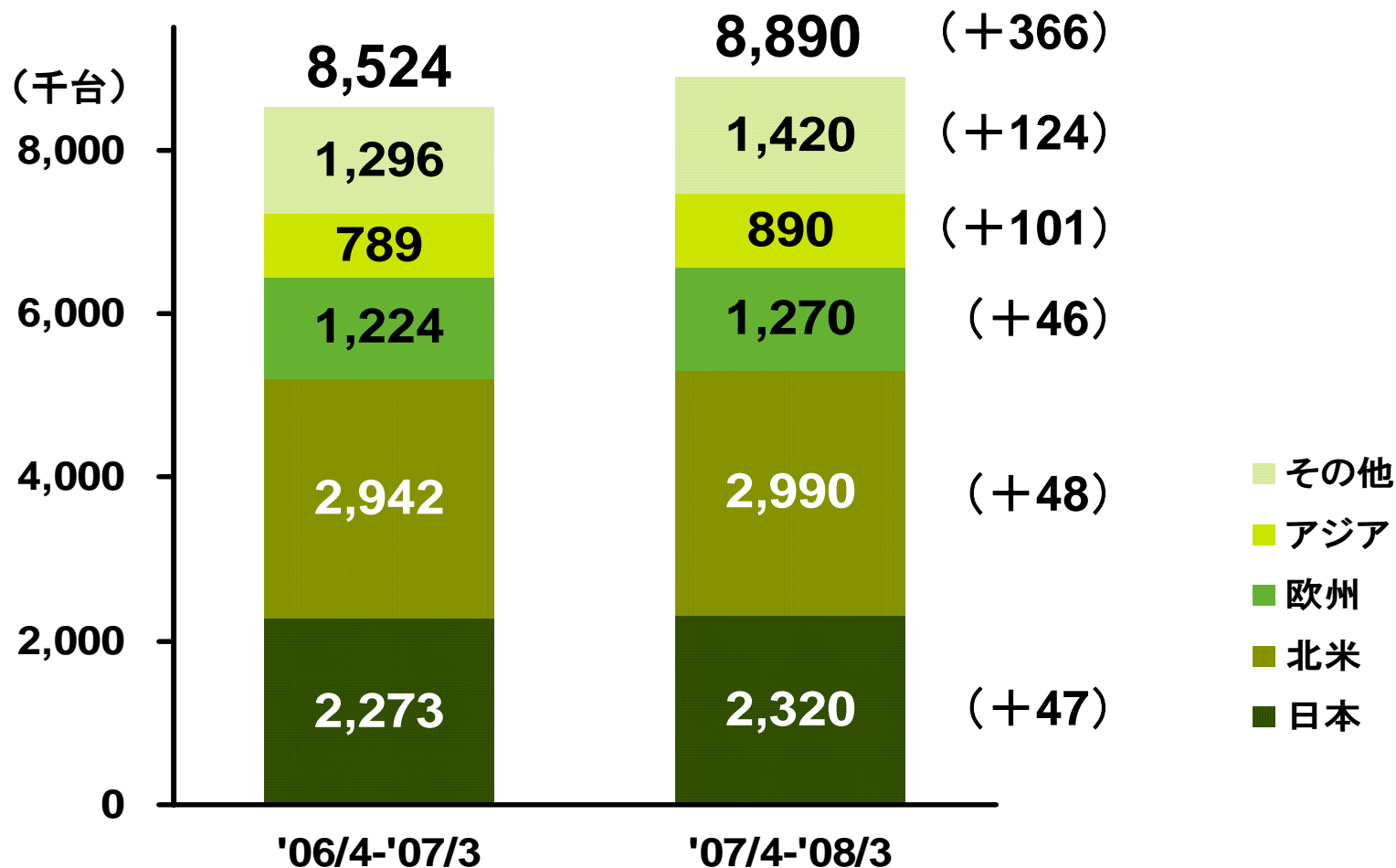
- 環境技術(燃費・CO<sub>2</sub>・排ガス)
- 安全技術(先進技術・商品への展開)
- 次世代ハイブリッド技術
- 低コスト化技術
- 代替燃料車(バイオ・電気・水素)
- 将来モビリティ

<質の向上のポイント>

魅力ある商品・将来技術への研究開発投資/人材投入



# 08/3期見通し：連結販売台数



( )内は'06/4-'07/3実績からの増減

# 08/3期見通し：連結決算

□ 連結売上高：	25兆円	前期比 (4.4%増)
□ 連結営業利益：	2兆2,500億円	(0.5%増)
□ 連結当期純利益：	1兆6,500億円	(0.4%増)

為替レート前提

ドル	115円
ユーロ	150円

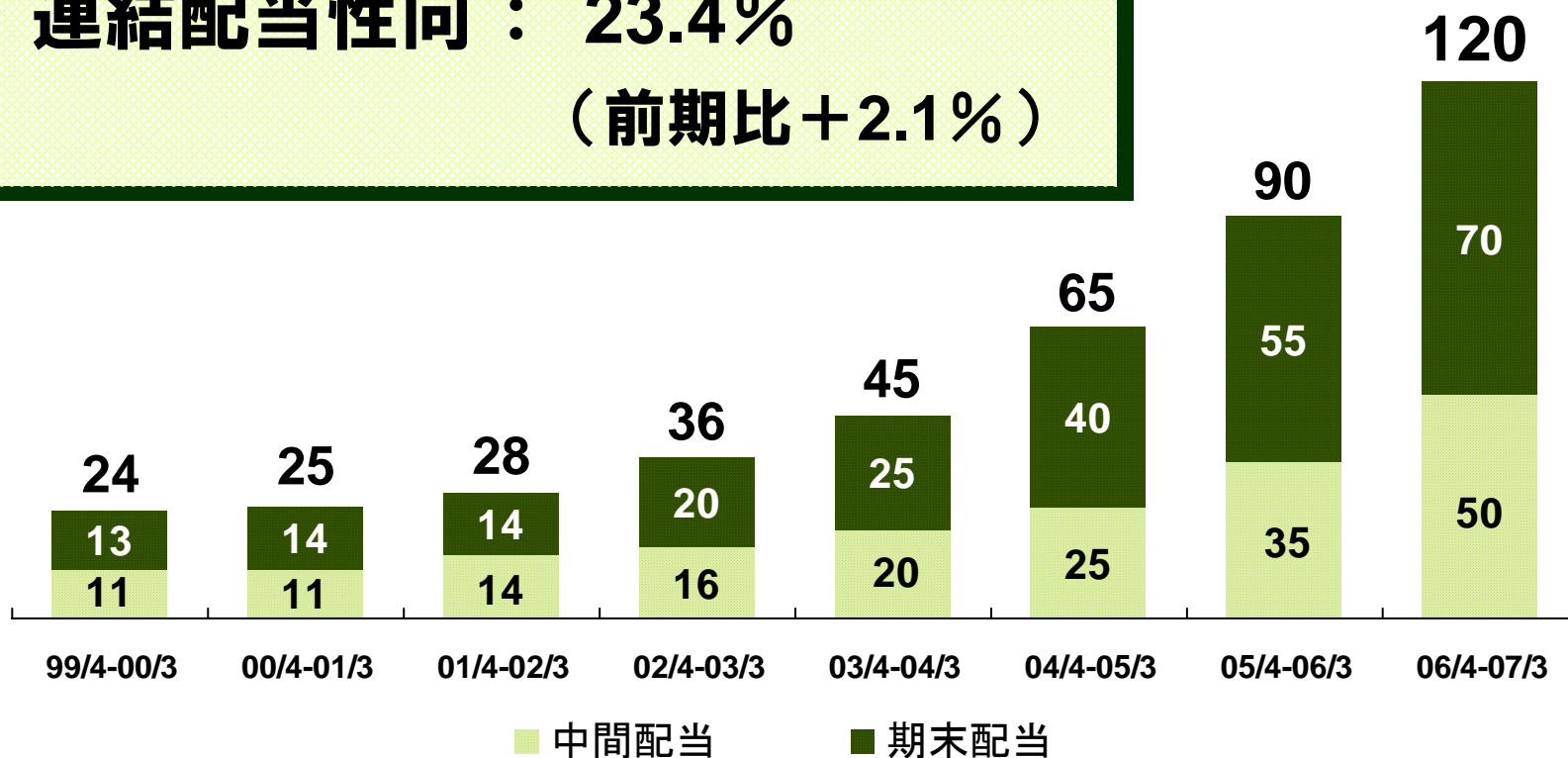
# 株主還元

## 配当：1株につき120円（前期比 30円増配）

配当総額： 3,846億円

連結配当性向： 23.4%

（前期比+2.1%）

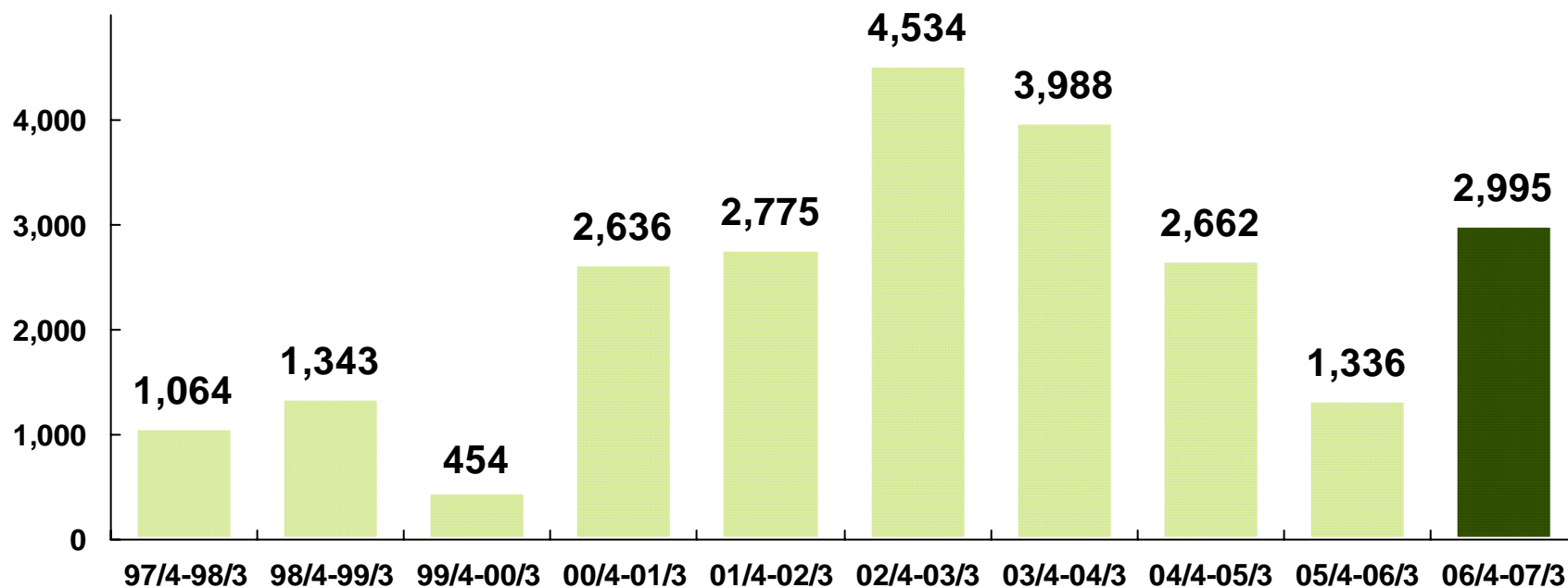




## 自己株買い

授權枠(上限)：2,500億円  
30百万株

### ■ 過去10年の取得実績額(億円)



**専務取締役**

**鈴木 武**

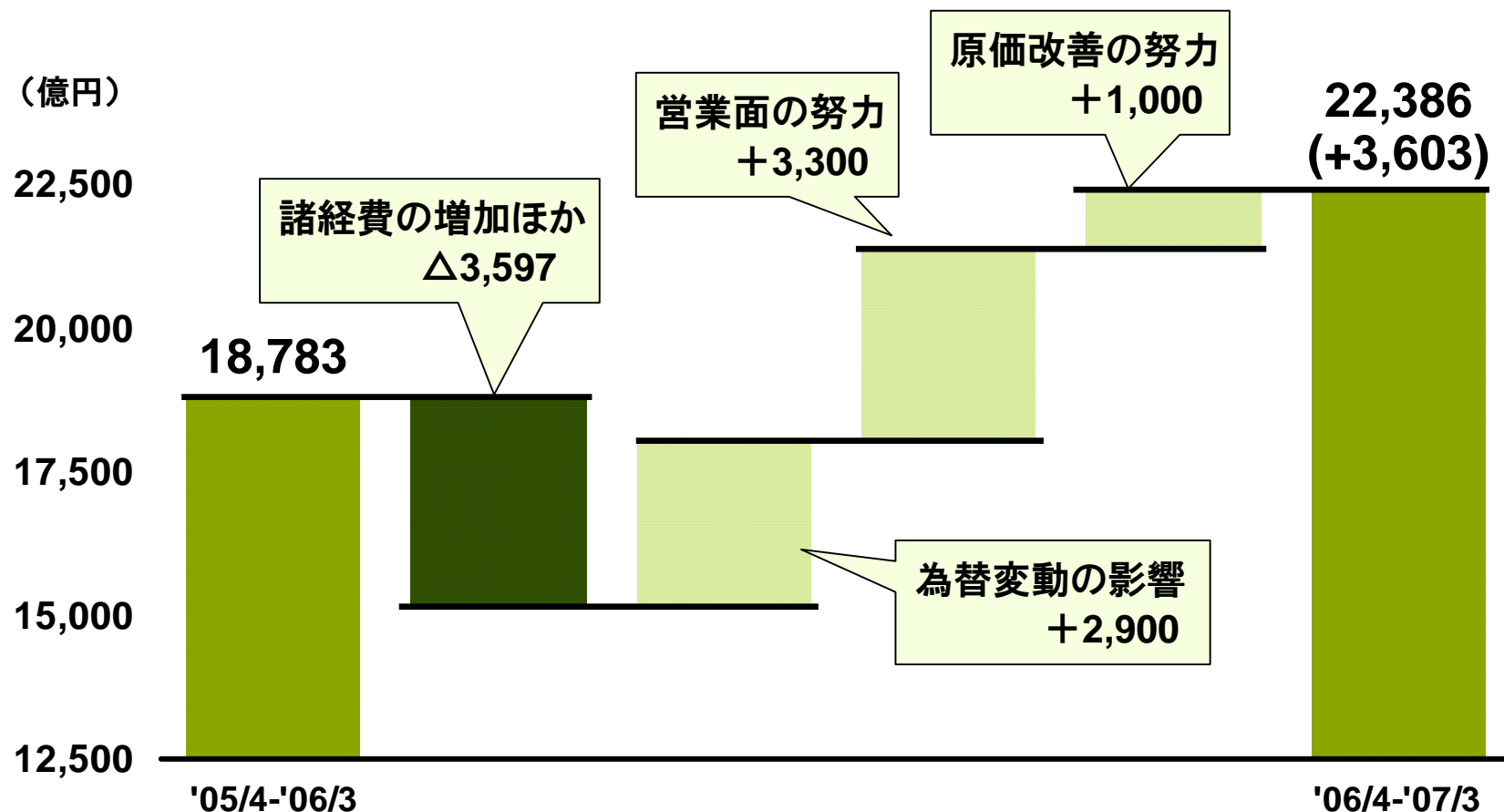
# 連結決算要約

(単位:億円)

	当期 ( '06/4-'07/3 )	前期 ( '05/4-'06/3 )	増 減	
売上高	239,480	210,369	29,111	13.8%
営業利益	22,386	18,783	3,603	19.2%
税金等調整前 当期純利益	23,825	*20,873	2,952	14.1%
当期純利益	16,440	13,721	2,719	19.8%
為替レート	ドル	117円	113円	4円の円安
	ユーロ	150円	138円	12円の円安

\* 三菱東京フィナンシャルグループとUFJホールディングスの合併に伴う株式交換差益(みなし売却益)1,433億円を含む

# 連結営業利益増減要因

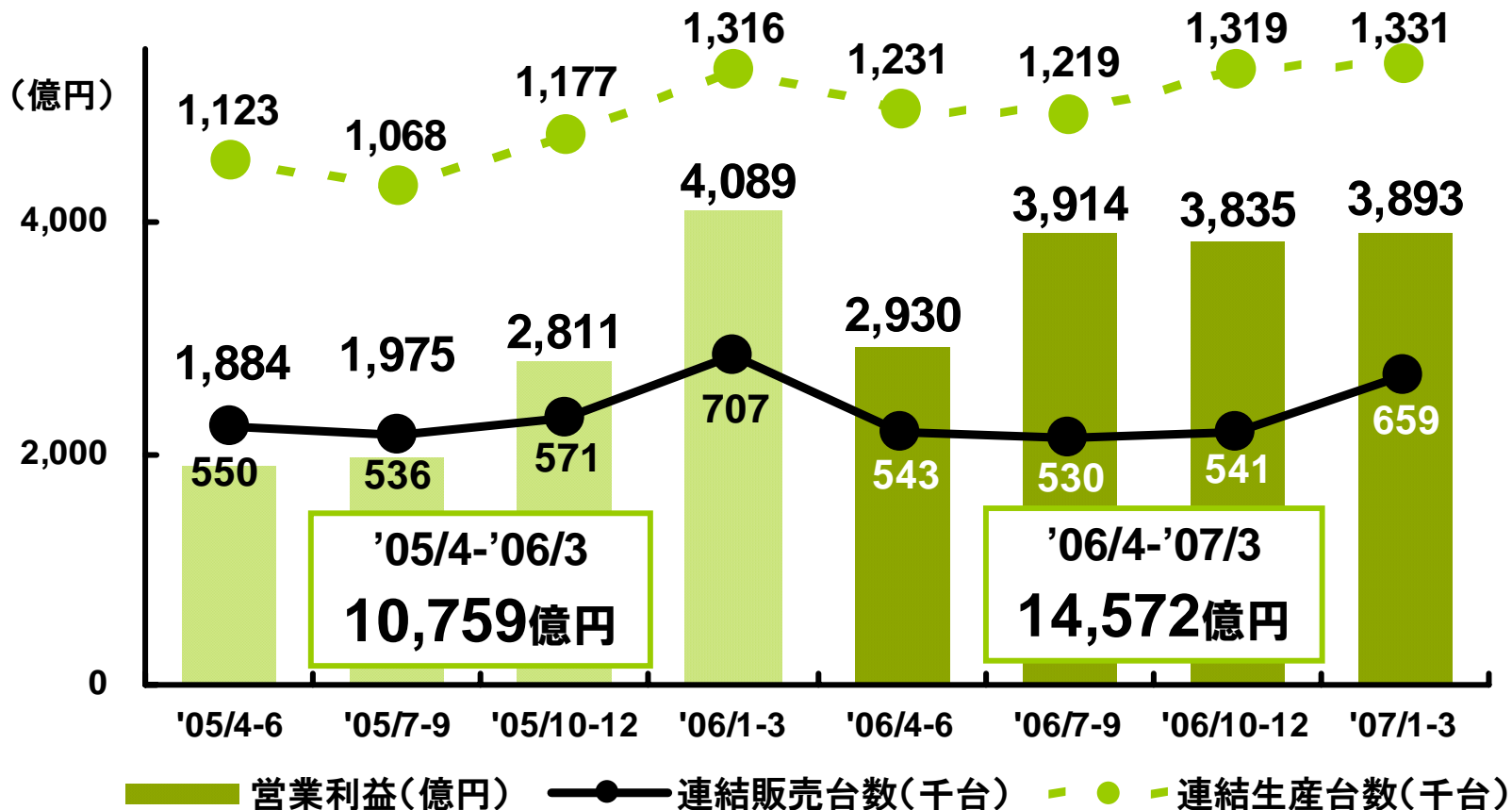


## <諸経費の増加ほか 内訳>

研究開発費の増加	Δ957
減価償却費および 設備関連費用	Δ706
労務費の増加	Δ997

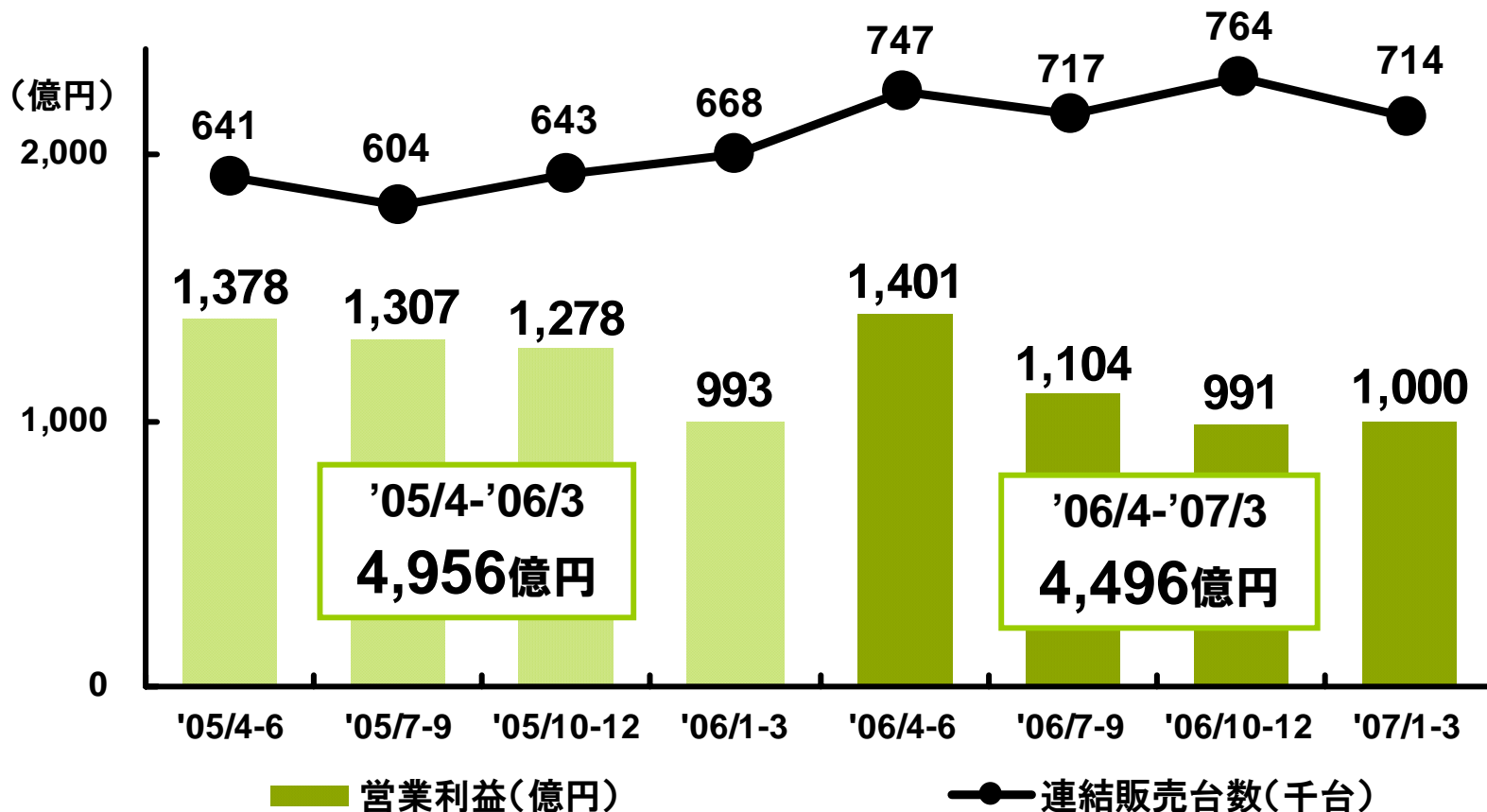
業容拡大による 諸経費の増加	Δ1,284
減価償却費の 計算方法見直し	+463
金利スワップ評価損益	Δ116

# 所在地別営業利益：日本



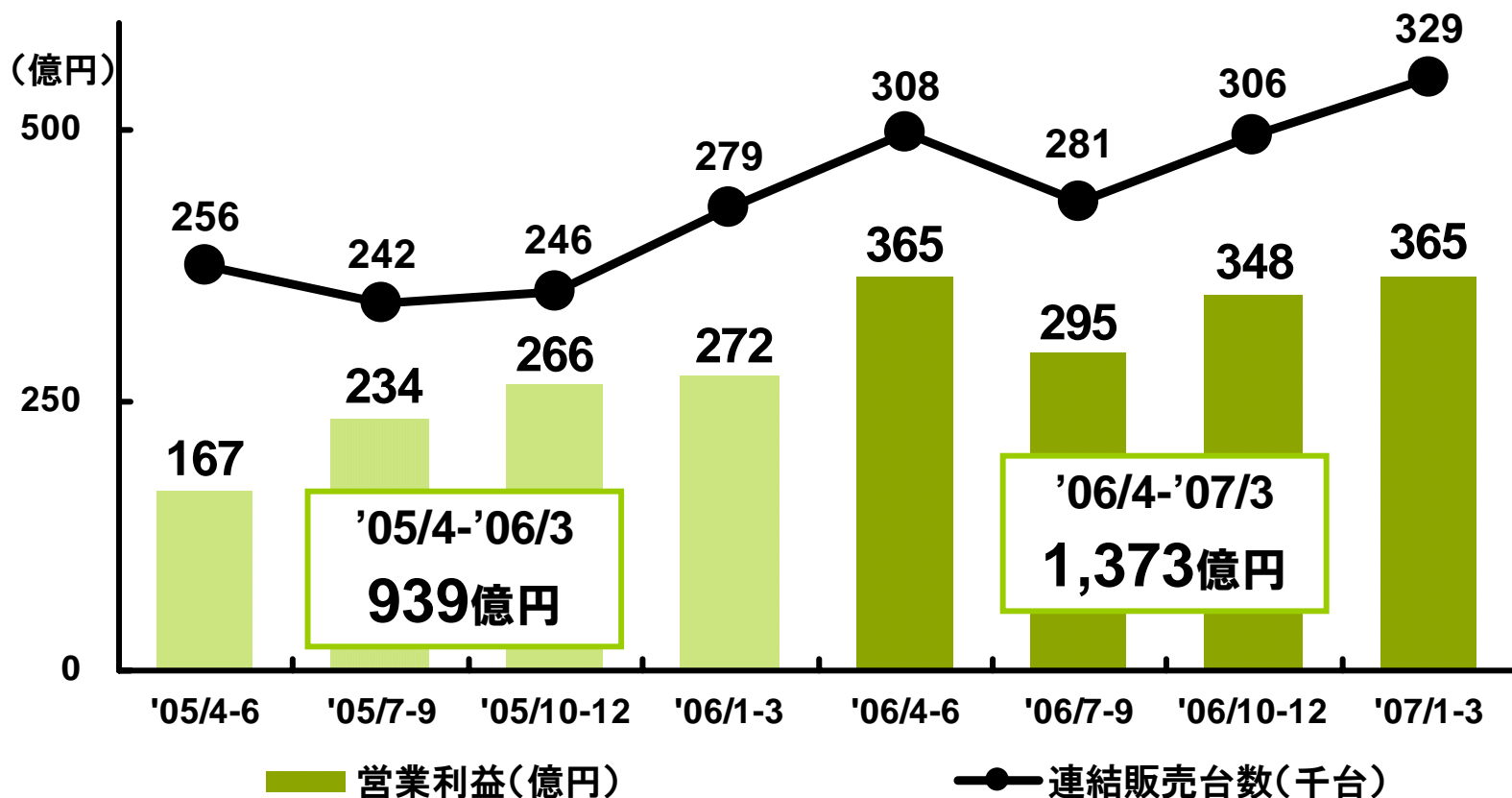
- ・輸出台数の増加が増益に大きく寄与。
- ・レクサスLSの好調な販売などにより、車種構成が改善。

# 所在地別営業利益：北米



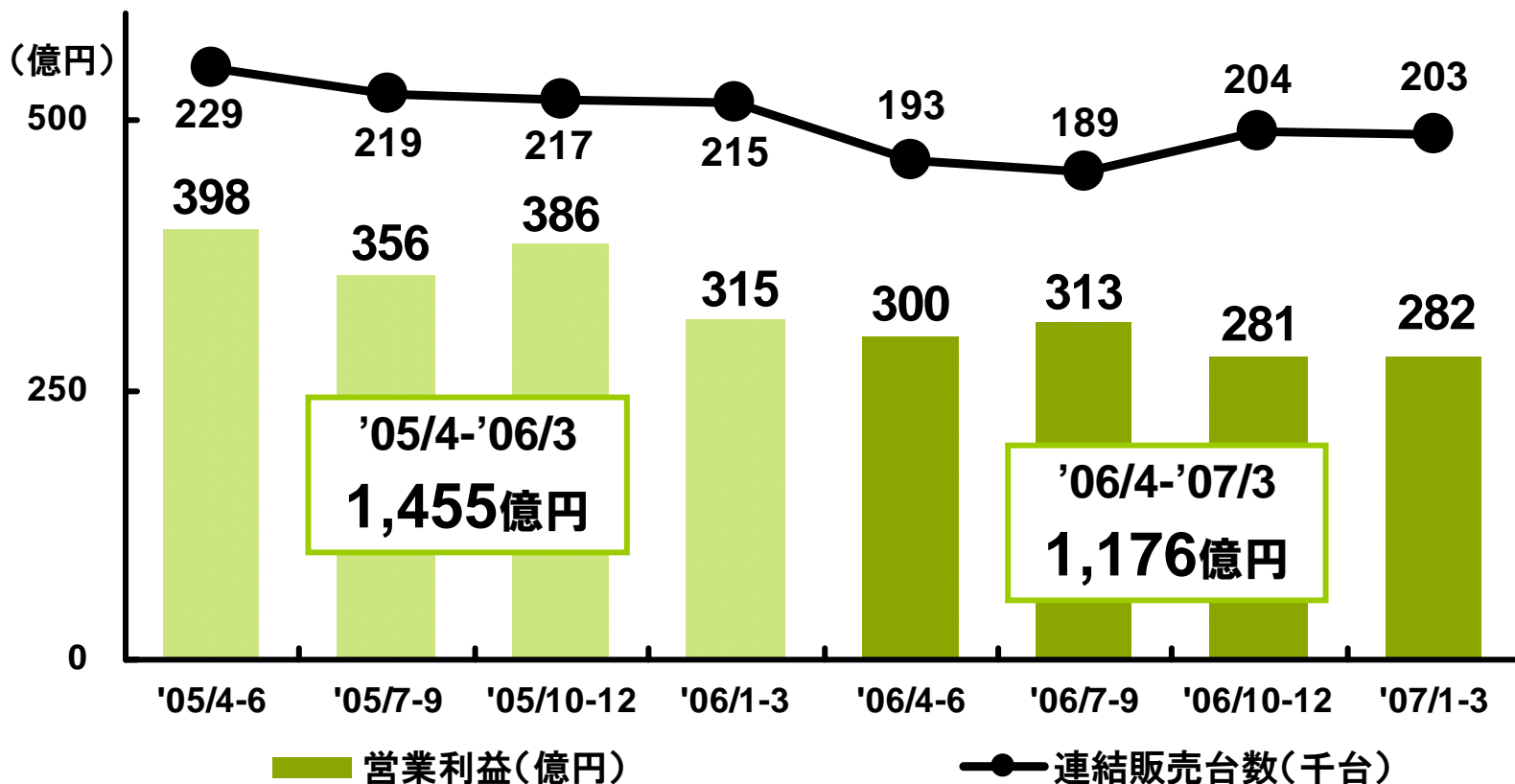
- ・新型車を中心に、販売が好調。
- ・新工場立上げ、モデル切替の一時的な投資負担が発生。

# 所在地別営業利益：欧州



・ヤリス・アイゴ・RAV4などのコアモデルの好調な販売により、一段高い収益レベルを達成。

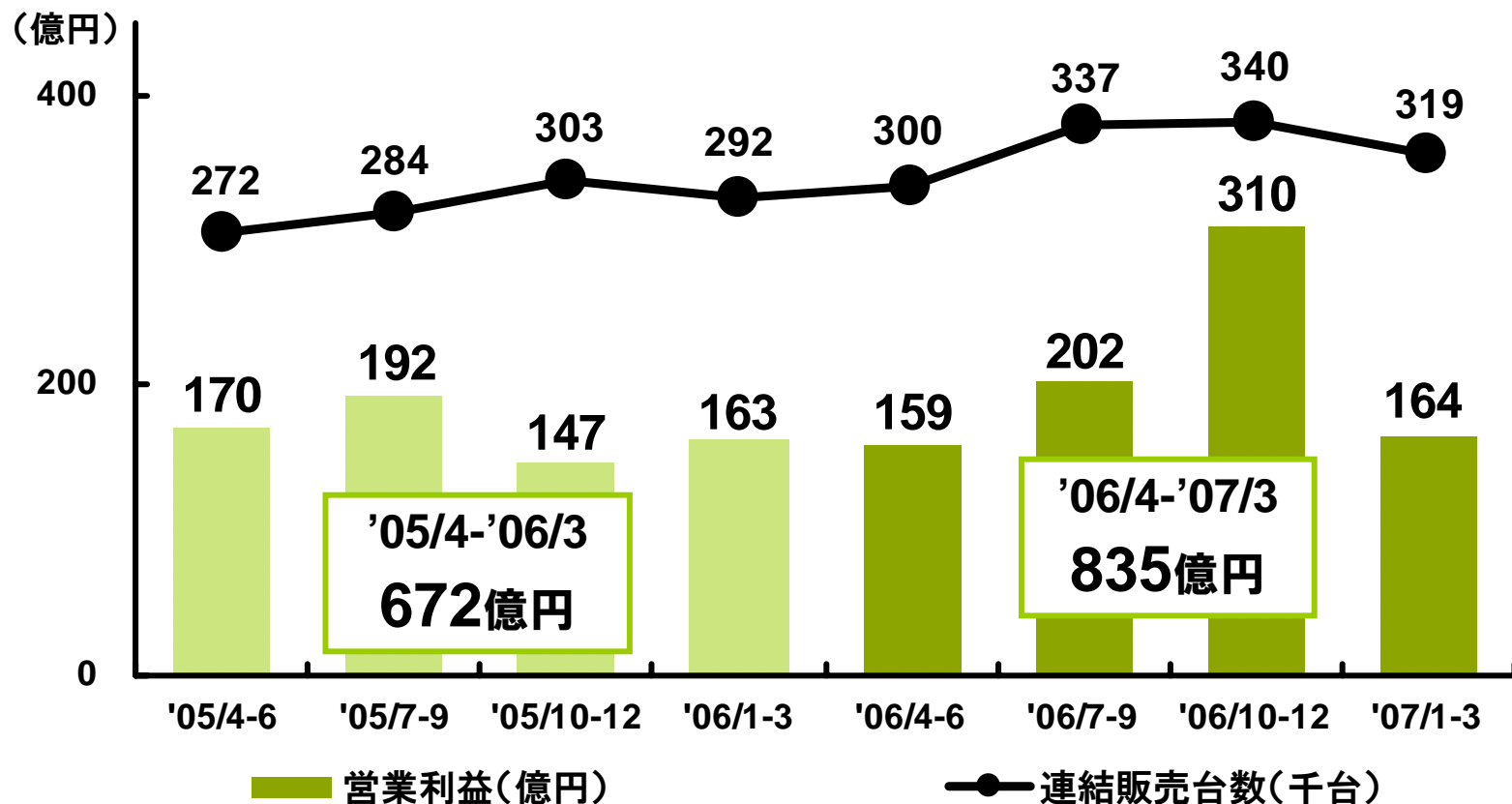
# 所在地別営業利益:アジア



・インドネシア・台湾での市場の落ち込みにより、販売台数が減少。

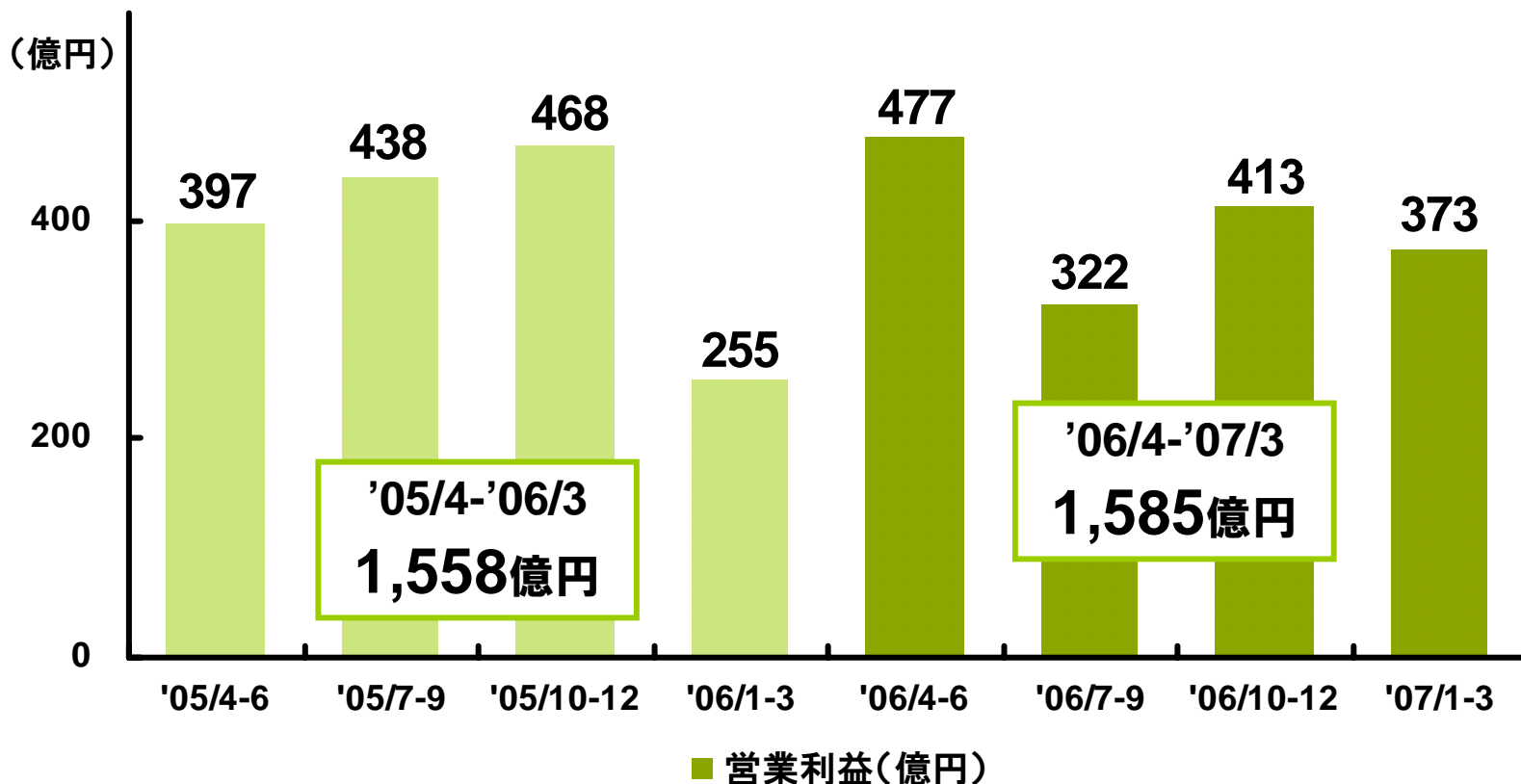


# 所在地別営業利益：その他地域



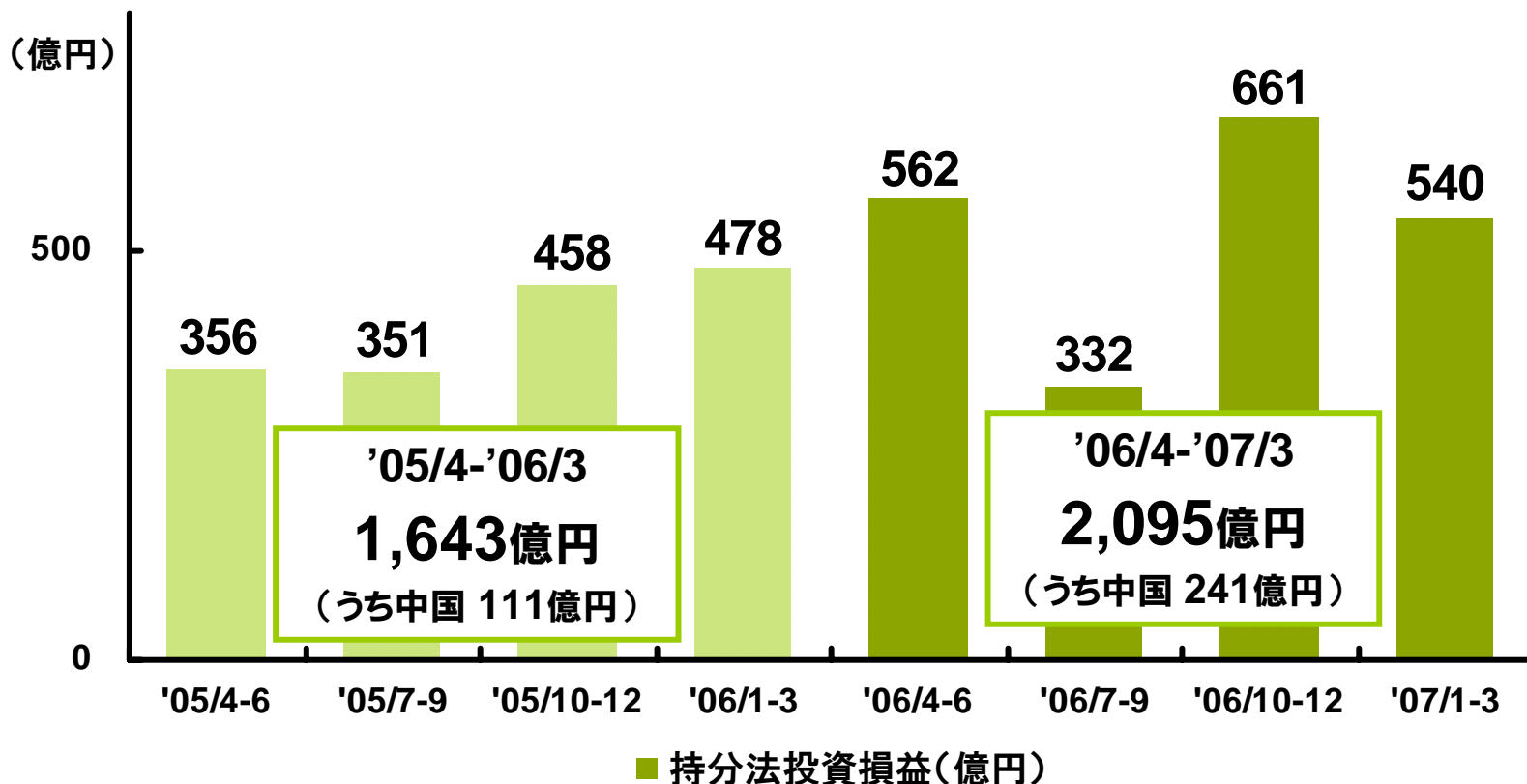
・IMV・カムリを中心とした好調な販売により、大幅増益。

# 事業別セグメント：金融



- ・融資残高の順調な伸びにより、収益は拡大。
- ・販売金融子会社の金利スワップ評価損益の影響：  $\Delta$ 116億円

# 持分法投資損益



・国内グループ会社・中国合弁事業体を中心に、大幅増益を達成。

# 設備投資、減価償却費、研究開発費(実績) 28

(単位:億円)

	設備投資	減価償却費	研究開発費
連結計	14,826 (△462)	9,470 (+556)	8,907 (+781)
日本	8,153 (△940)	5,925 (+236)	
北米	3,193 (+490)	1,653 (+2)	
欧州	1,197 (△108)	895 (+136)	
アジア	1,416 (+97)	619 (+139)	
その他	867 (△1)	378 (+43)	

( )内は'05/4-'06/3実績からの増減

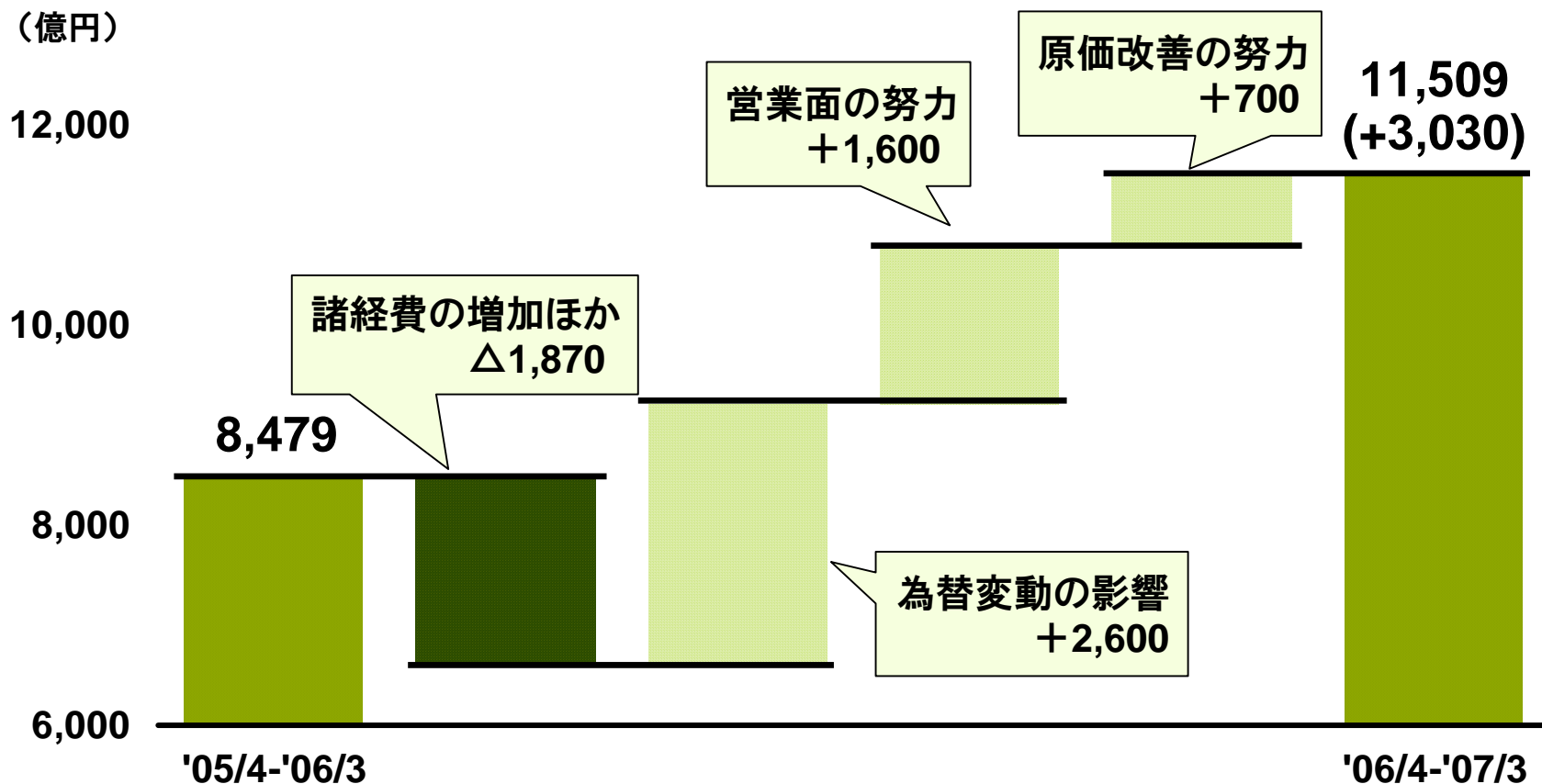
# 单独決算要約(日本基準)

29

(単位:億円)

	当期 ( '06/4-'07/3 )	前期 ( '05/4-'06/3 )	増 減	
売上高	115,718	101,918	13,800	13.5%
営業利益	11,509	8,479	3,030	35.7%
経常利益	15,551	11,047	4,504	40.8%
当期純利益	10,601	7,659	2,942	38.4%

# 単独営業利益増減要因



## <諸経費の増加ほか 内訳>

研究開発費の増加 .....	△738	業容拡大による	
減価償却費および		諸経費の増加 .....	△1,036
設備関連費用 .....	△211	減価償却費の	
労務費の増加 .....	△348	計算方法見直し .....	+463

# 来期見通し: 連結決算

(単位: 億円)

	来期見通し ( '07/4-'08/3 )	当期実績 ( '06/4-'07/3 )	増 減	
売上高	250,000	239,480	10,520	4.4%
営業利益	22,500	22,386	114	0.5%
税金等調整前 当期純利益	24,000	23,825	175	0.7%
当期純利益	16,500	16,440	60	0.4%
為替レート	ドル	115円	117円	2円の円高
	ユーロ	150円	150円	—

# 来期見通し：設備投資、減価償却費、研究開発費

(単位：億円)

	設備投資	減価償却費	研究開発費
連結計	15,000 (+174)	10,200 (+730)	9,400 (+493)
日本	8,000 (△153)	6,300 (+375)	
北米	4,000 (+807)	1,900 (+247)	
欧州	1,100 (△97)	900 (+5)	
アジア	1,100 (△316)	650 (+31)	
その他	800 (△67)	450 (+72)	

( )内は'06/4-'07/3実績からの増減



# 来期見通し: 単独決算(日本基準)

33

(単位: 億円)

	来期見通し ( '07/4-'08/3 )	当期実績 ( '06/4-'07/3 )	増 減	
売上高	117,000	115,718	1,282	1.1%
営業利益	11,000	11,509	△509	△4.4%
経常利益	15,900	15,551	349	2.2%
当期純利益	11,300	10,601	699	6.6%

# 来期見通し：台数等(トヨタ・レクサス)

		来期見通し ( '07/4-'08/3 )	当期実績 ( '06/4-'07/3 )
生産	国内	4,280 千台	4,185 千台
	海外	4,380	3,939
	合計	8,660	8,124
国内販売		1,720	1,659
輸出		2,590	2,597
海外現地販売		6,900	6,443
住宅		5,200 戸	5,001 戸

# 2007年3月期 決算説明会



**トヨタ自動車株式会社**  
**2007年5月9日**